

まとめ

満願寺は、縁起や資料から建保年間（1213～1219年）に僧弁円によって創建されたと伝わります。本尊の木造十一面観音坐像（府指定有形文化財）には、建保6（1218）年の銘が残されています。これは、礎石建物1と礎石建物2の時期と符合しています。

その後、時期は不明ですが火災によって焼失し、室町時代に規模を縮小して再建されました。

さらに縁起によると、室町時代の末期、永禄年間（1570年頃）に火災のため焼失し、寛文年間（1661～1673年）に中興されました。発掘調査では、江戸時代の遺構が発見されていないことから、調査地南西部にある江戸時代の満願寺がこれに該当すると考えられます。最終的に満願寺は、昭和44（1969）年に現在の場所に移され、今日まで法灯が伝えられています。

今回の発掘調査では、中世から近世そして現代にいたる満願寺の変遷が明らかになりました。中世創建の伝承を持つ寺院は多くありますが、発掘調査によってその変遷をたどれる事例は少なく、貴重な調査事例となりました。

最後になりましたが、発掘調査にご参加いただいた皆様、ご指導、ご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。



石組み溝全景（西から）



まん がん じ あと 満願寺跡 第2次調査 現地説明会資料

調査場所 舞鶴市万願寺 地内
調査期間 令和元年7月4日～
調査機関 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

満願寺跡は、舞鶴市のほぼ中央に位置する中世寺院跡です。今回の調査では、満願寺に関連する礎石群、石組み溝などが見つかりました。

調査区全景（南西から）

満願寺周辺のできごと

1218（建保6）年 1213～1219年 （建保年間）	木造十一面観音坐像 造立 満願寺建立	中世満願寺の時代	礎石建物1 礎石建物2 火災 礎石建物3	鎌倉時代
1392（明德3）年	一色満範 丹後国守護職			
1449（宝徳年間）年～ 1570（永禄末期）年～ 1579（天正7）年	坂根修理亮 万願寺城入城 満願寺 野火により焼失 細川藤孝 丹後攻略			
1661（寛文年間）年～ 1767（明和4）年	満願寺 再建 満願寺 改築	室町時代		江戸時代
1969（昭和44）年	満願寺 現在の場所に移築			



江戸時代の満願寺跡



現在の満願寺

調査の概要～中世満願寺の発見～

今回の調査では、鎌倉時代から室町時代に複数回建替えられた礎石建物や石組み溝などが見つかりました。出土遺物から、この建物は寺院跡と考えられ、「紫雲山縁起」(1683年)の記載から、中世満願寺に関する遺構と判断されました。

礎石建物は3時期にわたって造営されています。

鎌倉時代に礎石建物1、続いて礎石建物2が造られました。礎石建物2は、東西9間、南北5間以上の大規模な建物であり、鎌倉時代の満願寺の隆盛を示しています。

また、建物を囲むように溝が巡っています。鎌倉時代の建物と方向が一致していることから、鎌倉時代に造られたと推定されます。

室町時代の礎石建物3は、礎石建物2を覆う焼土層や炭層の上に作られています。このことから、礎石建物2は火災にあったものと考えられます。建物南側の石組み溝の一部に火災によって赤く変色した石材が再利用されていることから、再建時に石組みが施されたと考えられます。

なお、寺院に関する遺物としては、仏具の鉄磬や仏像の一部と考えられる銅製品が出土しています。また、瓦が出土していないことから、建物の屋根は檜皮や板葺きであったと考えられます。

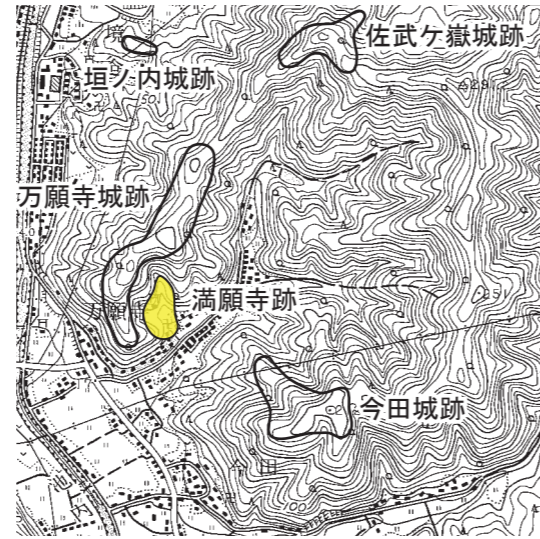
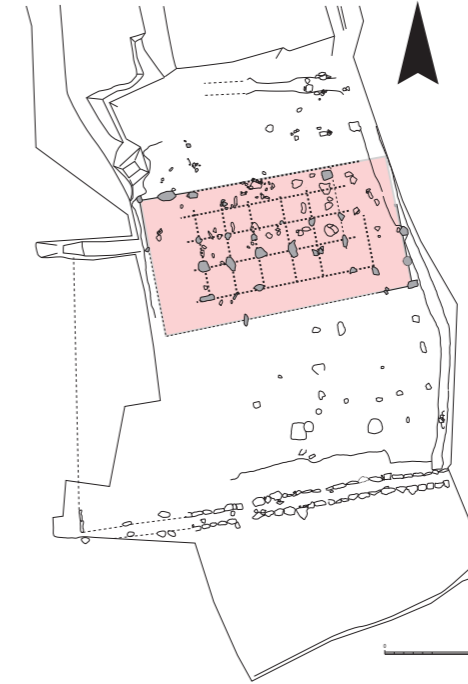


図1 調査地と周辺の中世遺跡 (西舞鶴 1/25,000)



礎石建物1平面図



礎石建物2平面図



礎石建物3平面図

*鉄磬・・・法要の際、読経の合図として鳴らした仏具



満願寺、建立時期 (礎石建物1)

創建期と考えられる礎石建物1の南東部の石材が見つかりました。残りが悪く、正確な規模は不明ですが、南北2間以上、東西4間以上の建物と考えられます。



満願寺、改築時期 (礎石建物2)

推定できる建物の大きさは、南北5間以上、東西9間以上と考えられますが、複数の建物になる可能性もあります。焼けた土器や炭が見つまっていることから、焼失したものと考えられます。



満願寺、再建時期 (礎石建物3)

室町時代終わりごろの礎石建物です。ほぼ正方位に合わせて建物を建てていることがわかります。建物の規模は、南北4間以上、東西5間以上と考えられます。建物規模は小さくなりました。